

小笠原諸島の世界遺産への推薦書提出後の動きについて

平成 23 年 1 月 18 日
環境省自然環境局自然環境計画課

1. これまでの経緯

平成 22 年 1 月 世界遺産委員会の事務局である世界遺産センター
に推薦書を提出

7 月 世界遺産委員会の諮問機関である国際自然保護連
合(IUCN)による現地調査

9 月 14 日 IUCN から小笠原諸島の推薦に関して追加情報の
要請を含む公式書簡が送付

10 月 1 日 公式書簡の内容について公表

10 月 15 日 小笠原諸島世界自然遺産候補地地域連絡会議

11 月 15 日 IUCN へ回答送付

2. 小笠原諸島の IUCN による現地調査について

①調査日程

平成 22 年 7 月 2 日 (金) から 15 日 (木) まで
(このうち小笠原諸島の現地調査は 10 日間)

②派遣された専門家

ピーター・シェイディー Mr. Peter SHADIE

IUCN アジア保護地域プログラム責任者

ナオミ・ドーク Ms. Naomi DOAK

IUCN アジア保護地域プログラム担当

③現地調査における主な感想

現地調査において評価された点

- ・ 関係機関や NPO の協力関係
- ・ 外来種対策について多くの努力と成果
- ・ 地域の人々や科学者の主体的な関与

現地調査において指摘された点

- ・ 推薦区域の海域部分の拡張
- ・ バッファーズーンの説明の強化
- ・ 管理形態のわかりやすさ など



母島南崎にて説明を担った日本側の専門家と

3. 公式書簡の内容と回答の概要

追加情報をもとめる公式書簡の内容とその回答の概要は次のとおり。

IUCNからの指摘、要請	回答の概要
① 既存の海域公園地区を推薦区域に編入すること	既存の小笠原国立公園の海域公園地区のうち、推薦地の陸域に隣接するものすべてを推薦地を含める。
② 小笠原国立公園のうち推薦地の外側に広がる部分が、推薦地に	バッファーズーンとしての機能があることを認め、さらに推薦地

<p>対するバッファゾーンとしての機能を有することを確認すること</p>	<p>の外側の国立公園に含まれない地域にも、都条例による開発規制などバッファゾーンとしての機能があることを説明する。</p>
<p>③ 主要な外来植物の分布調査の結果を送付すること</p>	<p>アカギ、モクマオウ、リュウキュウマツ等の侵略的な外来植物の分布図を提出するとともに、アカギ対策の実施実績について補足説明する。</p>
	<p>その他として、オガサワラオオコウモリの保護増殖事業計画の策定について報告する。</p>

4. 今後の予定

- IUCN では、追加提出した情報も含めて小笠原諸島の推薦について評価を行い、平成 23 年 5 月中旬を目途に、評価報告書を取りまとめる予定。
- この評価報告書をもとに、平成 23 年 6 月 19 日から 29 日にかけてバーレーンで開催される第 35 回世界遺産委員会において、小笠原諸島の世界遺産一覧表への記載について審議される予定。